



# 歯ッピー通信

2015年  
4月号

Vol. 10-①

岡山市歯科医師会  
広報委員会発行

## 《本会からのお知らせ》(熊代)

27年度より、岡山市行政からの委託により障がい者歯科治療と妊婦歯科健診に係る新たな事業が始まります。新規事業のため開始時期は年度後半以降になると思いますが、会員の先生方のご理解とご協力の程よろしくお願いたします。

## 《各部からの報告とお知らせ》

### 【公衆衛生部】

#### 《一般》(大島)

4/12(日)障がい者歯科診療の講習会の再案内です。詳細は、別紙をご覧ください。スタッフの皆様の参加もお待ちしております。

#### 《教育》(難波)

合同歯科検診では毎年ご協力有り難うございます。ここ数年免除会員の増加に伴い合同歯科検診応援医が大変不足しております。来年度に向けて免除会員の方々に応援医を募らせて頂くことに致しましたので、ご案内が届きましたら是非お手を挙げて頂くようお願い申し上げます。

#### 《訪問》(相坂)

4月26日(日)10時より県歯科医師会館にて杉政和先生をお招きして講演会を開催いたします。終末期の食を守るために歯科医がどう取り組むべきかをテーマとしてご講演頂きます。別紙にて詳細を掲載いたしております。スタッフの方もお誘い合わせの上ご参会のほどよろしくお願いたします。

### 【研修部】

#### 《社会保険》(委員 小橋)

Hys処置後6カ月未満の場合、Hys処置と同一歯の同じ場所にCR充填した場合はKPの算定になります。同一歯でも別の場所であれば、病名「Hys-C」の併記病名であれば充形からの算定が可能です。

#### 《研修企画》(岡崎)

研修企画では、歯科医療を安全に行うために、会員対象の口腔がん検診研修会、会員とスタッフを対象としたAEDを使った救急蘇生実習講習会を定期的に行っています。新入会の先生に限らず確認のための講習として、また医院の研修として利用していただければと思います。

### 【総務部】

#### 《医療管理》(行正)

医療法により、従事者全員の結核にかかる定期的健康診断を行うとともに、その実施状況を管轄の保健所へ平成26年度分は平成27年4月10日までに報告することになっています。会員の先生及び従事者の方は淳風会病院やメディカルセンターでの健康診断で、胸部X線撮影を受けておられると思います。その旨を所定用紙にご記入の上報告して下さい。X線撮影が実施できない場合は喀痰検査を受けて結核の有無を報告して下さい(報告はFAX可)。ご不明な点は医療管理担当理事までご一報下さい。

#### 《厚生》(横山)

恒例のファジアーノ岡山団体観戦を今年も開催します。5月24日(日)横浜FC戦です。近日ご案内をFAXにて行いますので、奮ってご参加ください。今季ここまで好調のファジアーノをみんなで応援しましょう!

#### 《広報》(横山)

人形に続き歯ッピーちゃんピンバッジおよびストラップを作製しました。会員章として、また、患者さんとのコミュニケーションツールとしてご活用ください。もうすぐ皆様のお手元へお届けできるよう準備を進めております、今しばらくお待ちください。

#### 【技工学院】(居樹)

2年生18名、3月21日に全員卒業致しました。入学以来一人も欠けることなく卒業できたのは会員の皆様の協力のおかげだと感謝しております。その後、国家試験の発表があり全員無事合格致しました。本年も開校以来国家試験合格率100%を堅持することができました。卒業生の皆さんの努力に拍手を送ります!以前から熱望していたCAD/CAMが設置されました。これからの時代に絶対必要なCAD/CAMをやっと学生の実習に使うことができ、より実践的な指導ができると自負しております。

## 《行事予定》

4月12日(日)	障がい者歯科診療講習会	県歯会館5階(10:00)
4月22日(水)	合同検診説明会・社保講習会	県歯会館5階(20:00)
4月26日(日)	公衆衛生部食介護おかやま研究会発足記念講演会	県歯会館5階(10:00)
5月24日(日)	ファジアーノ岡山団体観戦	シティーライトスタジアム(13:00)

## 《終わりに》(壺内)

春の到来です!「春は苦みを盛れ」と言われます。春野菜の苦みには老廃物を追い出し新陳代謝を促進させる作用や肝臓の働きを助ける解毒作用があるそうです。地中で寒い冬の間にエネルギーを貯め芽吹いてきます。菜の花、土筆、ふきのとう...どれも美味しいものばかり。旬の食材で四季を感じることは幸せな瞬間です。春野菜の生命力をもらい、リフレッシュして残り任期3か月頑張ってください。宜しくお願いします。



# 歯ッピ一通信

2015年  
4月号

Vol. 10-②

岡山市歯科医師会  
広報委員会発行

## 《障がい者歯科診療講習会》

日時：平成27年4月12日（日）10：00～13：00 会場：岡山県歯科医師会館5階大ホール

演題：『歯科治療の苦手な発達障がい者への対応』

講師：岡山大学病院 スペシャルニーズ歯科センター センター長・教授 江草正彦 先生

歯科医療場面は定型発達の人にとっても、不安で苦痛の多いところですが、様々な特性をもつ発達障がい者にとってはさらにハードルが高いと思われます。発達障がい者は思春期になれば情動が不安定になり、さらにはてんかんを合併するようになれば病態はより複雑になります。その結果、定期的歯科健診の中断、飲食のこだわり、歯科診療の協力性が得られにくくなるなどにより、齲蝕、歯周病が急増する可能性が非常に高くなります。私は2008年に米国・University of North Carolina 医学部精神科の関連施設であるGreensboro TEACCH center（自閉症センター）で研修する機会を得ました。

TEACCHとはTreatment and Education of Autistic and related Communication Handicapped Childrenの略です。米国で唯一の州規模でおこなわれている自閉症スペクトラム障害（以下、ASD）の保健施策で、ASDに関する研究や教育を行うと同時に、州の公的プログラムとして臨床サービスを提供しています。TEACCHは特定の技法ではありません。今回はTEACCHの理論を歯科に応用した構造化（刺激の整理）の考え方、および感覚刺激のコントロールをすることによって、歯科医療が楽に受けられることを、発達障がい者の歯科的な対応をとってお話できればと思います。

演題：『脳性麻痺およびてんかんを有する患者の歯科治療』

講師：岡山大学病院 スペシャルニーズ歯科センター 副センター長・助教 森 貴幸 先生

脳性麻痺をはじめとする身体障害者および脳の疾患である、てんかん有病者の歯科治療においては、知的障害者や自閉症者の治療非協力のように、治療が不可能になるような困難はありません。しかし、姿勢と運動の障害である脳性麻痺の人が歯科治療を受ける際には、健常者にはない身体面の苦痛を伴いながら歯科治療を受けることがあります。また、われわれ医療者にとっても、身体の極度な緊張や不随意運動、原始反射の残存により、予期せぬ動きがある脳性麻痺の人の歯科治療は、リスク管理において困難を伴います。

てんかんを有する人で、発作のコントロールが困難な人は、1日に何度も発作を起こしており、発作の型によっては、われわれが発作と気づかない発作を起こしている可能性があります。発作が起きた場合には外傷の他、脳がダメージを受けることも懸念されるので、速やかな対応が求められます。また、歯科治療は様々な刺激に満ちており、歯科治療や口腔ケアが発作を誘発することがあります。障害者歯科受診患者には、抗てんかん薬を常用している患者も多く、口腔内にもその副作用が現れることがあります。

今回の講演は、歯科治療中の事故を未然に防ぐ、リスク管理からの観点を中心としたお話しをさせていただこうと考えます。それに加えて、脳性麻痺とてんかんの原因と症状について脳の働きを含めた、やや詳しい話を行いますので、脳性麻痺やてんかんについての理解をさらに深めていただければ幸いです。

地域の医療連携の向上を目的として、脳性麻痺などの身体障害を有する人、てんかんを有する人が、できるだけ楽に、安全に治療を受けていただけるような情報を提供させていただこうと思います。

## 《食介護おかやま研究会発足記念講演会》

日時：平成27年4月26日（日）10：00～13：00 会場：岡山県歯科医師会館5階大ホール

演題：『がんの終末期と「食」～自分らしく生きるために～』

講師：杉歯科クリニック 杉 政和 先生（石川県開業、日本歯科医師会学術委員会委員）

演者は19年前より石川県済生会金沢病院緩和ケア病棟において、ボランティアとして終末期がん患者の口腔症状の診断、治療やケアのアドバイスなどに携わっているが、このような歯科的知識と技能が、終末期を生きるがん患者の食を守るための大きな力となり、患者が最期まで自分らしく生きるための支えとなった場面を数多く経験してきた。終末期における食の意味を栄養摂取のための身体的側面からみると、経口摂取を行わず経静脈栄養のみで栄養を補った場合、腸管からの栄養吸収の低下や免疫機能の低下をきたす可能性があり、これを防ぐためにも可能な限り経口摂取を継続することが望まれる。また精神的側面からみれば、食は人としての尊厳に最も深く関わる行為であると同時に「食べる」ことは「生きる」、「生活する」と同じ意味で使われることも多い。したがって終末期がん患者において食を支えることは、人としての尊厳を支えると同時にがん患者の生活そのものを支えることであり、がん患者の「生きる希望」を支えることに他ならないのである。

今回の講演では、演者の経験を基に、食を守る上で問題となる終末期がん患者の口腔状態、なかでも特徴的な口腔不快症状やよくみられる口腔トラブルについて述べた上で、その具体的な対応方法と食を守るための多職種連携における歯科医療の果たすべき役割について考えてみたいと思う。